

～昨日の風 明日の風～
**経営コンサルタント
 独白録**

【第101回】 ネガティブ・バイアスとの戦い



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、(株)経営改善支援センター(福岡市、URL <http://sien.co.jp/>)代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

明けましておめでとうございます。遅くなりましたが今年もよろしくお願いたします。本コラムも101回目を迎えることができました。拙い文章を8年以上お読みいただきありがとうございます。本年も全国各地で直接体験したことや気づいたことをお伝えしたいと考えております。

ネガティブ思考は本能？

脳には、ネガティブな情報ほど長く記憶に残す働きがあります。これを心理学では「ネガティブ・バイアス」と呼びます。この性質は、もともと人類が進化する過程で、災害や事故などの身の危険から自分や家族を守る防御としての役割を果たしてきました。リスクに特別な注意を払い、それらに敏感になり記憶に長く留めておく脳の機能が発達したと言われてます。結果として、私たちの脳は、ネガティブな感覚のほうを深く認識するようになりました。

人間関係においても、好印象はすぐになくなりますが、悪印象や不信を抱いた相手の記憶は長く残り続けます。悪い体験は、良い体験よりも強力なのです。人間の心理においては「悪貨は良貨を駆逐する」といわれています。

価値観の多様化と希薄化

ここ数十年の科学技術の発達により、われわれはさまざまな情報にダイレクトに接することができるようになりました。その結果、価値観の多様化が進み、物事を多角的に知る機会を得てきました。以前なら専門家に依頼しなければならなかったことがスマホで処理できたり、新聞など読まずともおおまかな世の中の動きを知ることができます。飛行機や宿泊先の手配などは、以前では旅行業者を経てチケットを確保していたのですが、現在は個人がダイレクトに行えます。商品の購入も販売店に出向くことなく、ネットを通じて手に入れることができます。まさに便利な時代を生きているということができます。

同時に「準備する」「調べる」「学ぶ」「理解する」「伝える」「共有する」という人類進化のプロセスが希薄化し、個人や組織が孤立化を始めています。

会社の人と飲みたくない！

世代間のギャップに関して、コミュニケーションが取りにくくなった象徴として「会社の人と親しくする必要は無い」という若者の発言があります。人間は本来、前の世代の人たちの知識を吸収して、それを次の世代へ伝えるというプロセスが必要だったのですが、それすらも最近では実行が困難な時代になりつつあります。これらは、多くの場合マスコミに代表される強烈なネガティブ・バイアスへの偏重が影響しています。

ここ数年のメディアの退廃は目を覆いたくなるほどです。ひたすらネガティブな情報を流し、視聴者を煽り続けています。時に明確な「嘘」を混ぜ込み正確な判断をしようとする人々を混乱させます。発言の切り取り、都合の良いデータの引用、重要ニュースの隠蔽、御用学者・コメンテーターの登場など「ネガティブ・バイアス」のオンパレードです。

本質を見失わないために

情報化社会が進むことは悪いことではありません。以前にはできなかったことが可能になるわけですから大いに活用したいと思えます。しかしネガティブな情報や言動に対する人間の性質を自覚して、自身の判断力を磨かなければならない時代になっていることも間違いは無いのではないのでしょうか。

個人的にここ3ヶ月ほどほとんどテレビを見ません。見たところで、本当の意味で社会や時代を理解したとはいえ、むしろそうしたネガティブ情報から離れたところで物事を考えた方がより細やかに理解ができるような気がしています。

「本を読む」「直接人の話しを聞く」「現地、現場で判断する」という基本動作を忘れないようにしたいと考えています。人の判断の上に自分の判断を重ねない、人の言葉によって自分の判断を下さない。目まぐるしく風景の変わる2022年において大切なことではないかと考えています。